

平成21年 5月31日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2010

課題番号：18320046

研究課題名（和文） 仮面データベース構築に基づく能・狂言面の総合的研究

研究課題名（英文） The Creation of the Database of Noh and Kyogen Masks and General Studies Based on It.

研究代表者

大谷 節子 (OTANI SETSUKO)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：90211797

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：能面・狂言面・赤外線撮影・非破壊成分分析

1. 研究計画の概要

(1) 日本内外に所蔵される能・狂言面を網羅的に調査し、赤外線デジタル撮影によって、面の表裏に記される銘文、極書、印鈔、所蔵印を判読する。

(2) マイクロスコープ、ファイバーマルチチャンネル分光器などの非破壊的手法を用いて、木地、漆、顔料、膠着剤などの材料を科学的に分析する。

(3) 叙上の方法によって、あらゆる年代測定情報を集積し、能・狂言面に関する総合的なデータベースを構築する。

2. 研究の進捗状況

(1) 昨年度までに、林原美術館（岡山市）、国立能楽堂（東京都）、香川県歴史博物館、菅浦須賀神社郷土史料館（滋賀県）、甲津原神社（滋賀県）、三重県伊勢市通町公民館、三重県伊勢市一色町公民館、賀多神社（三重県鳥羽市）、大歳神社（兵庫県神戸市須磨区）、新穂歴史民俗資料館（新潟県佐渡市）、正法寺（新潟県佐渡市）、牛尾神社（新潟県佐渡市）、大聖院（新潟県佐渡市）、能楽資料館（新潟県佐渡市）、善竹忠一郎家、茂山千五郎家、片山家（一部）、金桜神社（山梨県）、上田市立博物館（長野県）、諏訪神社（長崎市）、善竹忠一郎家・茂山忠三郎家・山本東次郎家・和歌山県立博物館寄託紀州東照宮蔵面・佐賀県立博物館寄託高取家蔵面・宗像神社（福岡市）、ザンクトガレン民族博物館（スイス・ザンクトガレン）、リートベルク美術館（スイス・チューリヒ）、リンデン州立民族博物館（ドイツ）、ウィーン民族博物館（オーストリア）、ギメ美術館（フランス）、アムステルダム国立美術館（オランダ）、グラッシ博

物館（ドイツ）・エッセン民族博物館（ドイツ）の調査を行った。

(2) 上記所蔵面の調査データに基づき、面の表裏に記される銘文、極書、印鈔、所蔵印を判読し、データベース作成のための基礎資料を作成中である。

(3) 特定の面について、マイクロスコープ、ファイバーマルチチャンネル分光器などの非破壊的手法を用いて、木地、漆、顔料、膠着剤などの材料を科学的に分析中である。

3. 現在までの達成度

① おおむね順調に進展している。

（理由）

データ集積については、当初の計画以上に進展している。データベース構築のための作業はやや遅れているが、これは、調査によるデータ集積が計画以上に進展した結果、起きた必然的な現象であるとともに、データベース作成にあたって、基準の統一など、確認すべき点が予想以上に手間取っていることが原因である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) データ収集の継続（大英博物館、清涼寺、本村井神社、片山家、八代市立博物館未来の森ミュージアム・金沢能楽美術館など）

(2) 収集したデータの入力作業に力を注ぎ、今年度中のデータベースの完成を目指す。具体的には、面打、面の種類、製作年代ごとに容易に検索が可能なものとする。

(3) データベース構築の前段階として、面の種類などの名称を統一する必要があり、研究分担者とともに研究会を実施し、面の分類基準の確定、面の名称や表記を統一するため

の検討を行っていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ①大谷節子「能・狂言面データベースの課題と可能性」(『演劇映像学2007 報告集2』17～23頁、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム「演劇・映像の国際的教育研究拠点」発行、2009年、査読無)
- ②宮本圭造「鬼神面の系譜」(『演劇映像学2007 報告集2』17～23頁、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム「演劇・映像の国際的教育研究拠点」発行、2009年、査読無)
- ③大谷節子「京観世岩井家の明和本批判——岩井七郎右衛門家旧蔵資料から——」(『能と狂言』6号、52～68頁、能楽学会、2008年、査読有)
- ④宮本圭造、「能面史逍遙(一) 源氏香の面」(『能』604号、9～10頁、京都観世会館発行、2008年、査読無)
- ⑤宮本圭造、「能面史逍遙(二) 笹野堅著『狂言之面』と大光坊」(『能』603号、7～9頁、京都観世会館発行、2008年、査読無)
- ⑥宮本圭造、「能面史逍遙(三) 天下一角坊再検」(『能』602号、8～9頁、京都観世会館発行、2008年、査読無)
- ⑦大谷節子「面が伝える芸能の深秘」(『能』578号、1頁、京都観世会館発行、2006年、査読無)

[学会発表] (計 件)

[図書] (計1件)

- ①伊勢市教育委員会発行『国の記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財 一色の翁舞調査報告書』、2008年、245頁の内、12～31・48～66・136～148・163～243、大谷節子・宮本圭造・見市泰男(分担執筆)

[その他] (計2件)

- ①大谷節子「能・狂言面データベースの課題と可能性」、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム国際研究集会「散楽と仮面」にて研究発表、2007年12月7日、早稲田大学
- ②宮本圭造「鬼神面の系譜」、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム国際研究集会「散楽と仮面」にて研究発表、2007年12月7日、早稲田大学